能代市地域公共交通網形成計画 —概要版—

計画策定の背景・目的

本市における公共交通は、利用者の減少が続いており、今後もバス路線の統廃合が加速していくことが懸念される。その一方で、公共交通は、さらなる高齢化の進行や運転免許証返納者の増加等により、買い物や通院など、市民の暮らしに欠かすことのできない移動手段として、重要な役割を担っており、その必要性・重要性は一層高まっていくものと考えられる。

こうしたことを踏まえ、これからの地域にとって望ましい、より利便性の高い、持続可能な交通ネットワーク の構築・維持に資するため「能代市地域公共交通網形成計画」を策定する。

公共交通に関する現状と課題

■能代市の公共交通を取り巻く現状

【地域特性】

- ・人口は、減少傾向にあり、高齢化率は県全体より3.9ポイント高い値となっている。
- ・通勤・通学については、近隣市町からの流入が多く、その中でも広域圏を形成する藤里町、三種町、八峰町との関係性が高い。

【公共交通の現状】

- ・路線バスは、能代バスステーションを起点に放射状に各地域へ延びている。
- ・鉄道は、奥羽本線上には東能代駅と二ツ井駅があり、市内中心部の能代駅を含めて、バスも含めた交通の結 節点になっている。
- ・公共交通利用者は、巡回バスを除き減少傾向にある。これに伴い、路線バス・コミュニティバス・巡回バス・ デマンド型乗合タクシーを維持していくための市の財政負担額は、増加傾向にある。
- ・市民の居住エリアの多くは公共交通により網羅されているが、公共交通空白地域は各地域に点在している。

■地域住民ニーズ

【市民アンケート調査】

・普段利用する交通手段は、「自家用車」「自転車」「徒歩」が多く、公共交通の利用率は 11.4%と低い割合 を示している。

【路線バス・コミュニティバス利用者調査】

- 利用者の 6 割以上が 60 代以上になっており、利用目的では通院・買い物が多くなっている。要望・改善点としては、「運行本数」や「運行時間帯」が多く挙げられている。
- ・市と町を跨ぐ路線の利用者のうち、半数近くが市外からの利用であり、広域的な移動手段としての役割を担っている。

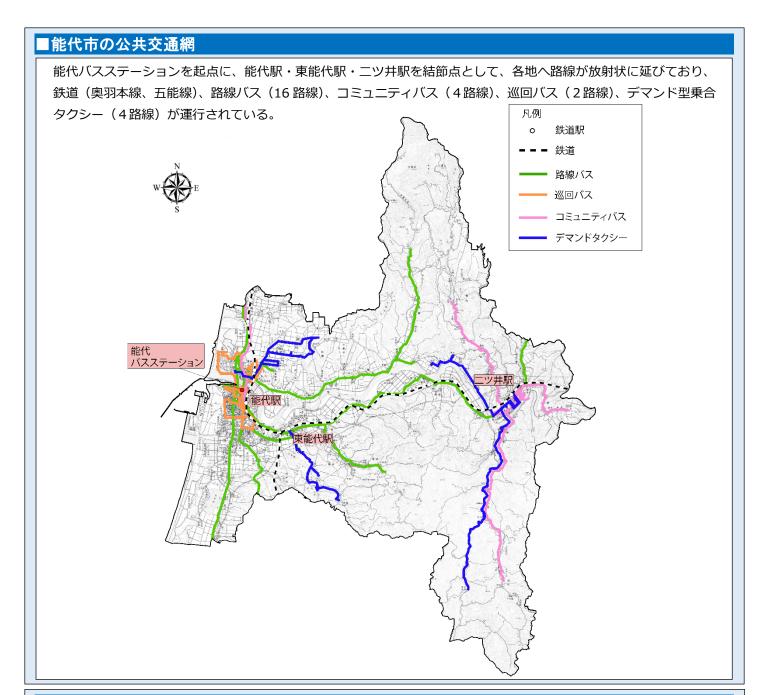
【巡回バス利用者調査】

・利用者の 7 割以上が 60 代以上になっており、利用目的では通院・買い物が多くなっている。要望・改善点としては、「運行経路」や「目的地までの所要時間」が多く挙げられている。

【デマンド型乗合タクシー運行地区調査】

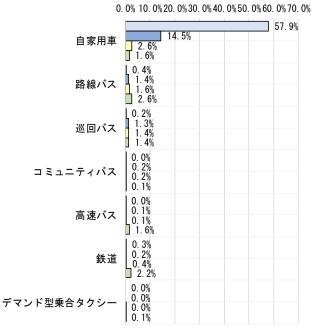
• 運行地区内 65 歳以上の 8 割近くの方がデマンド型乗合タクシーを認知しているが、「行きたい場所の近くに停留所がない」「行きたい場所の停留所の位置が分からない」との声もあり、目的地の設定や停留所の周知が課題になる。

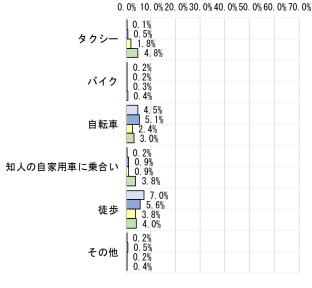
課題1	既存バス路線網の維持
課題2	公共交通の利用促進と利便性の向上
課題3	高齢者の生活を支える移動手段の確保
課題4	公共交通空白地域の解消
課題5	広域的取組やまちづくりと連携した対応





市民アンケート調査によると、外出時の交通手段は「自家用車」が最も多く、次いで「自転車」「徒歩」となっている。





基本方針

人の暮らしを支える地域公共交通の利便性向上と 持続可能な交通ネットワークの構築・維持

目標1

公共交通の利便性向上

【事業1】総合的な公共交通利活用ガイドの作成

【事業2】鉄道や路線バス等の乗り継ぎを考慮した運行ダイヤの調整

【事業3】巡回バス等の運行ルートの見直し

目標2

公共交通の利用促進

【事業4】高齢者や低年齢層を対象としたバスの乗り方教室の実施

【事業5】運転免許証返納をきっかけとした高齢者の利用促進への取組

【事業6】既存デマンド型乗合タクシーの運行見直し

目標3

公共交通空白地域の解消

【事業7】デマンド型乗合タクシー導入地域の検討

【事業8】(仮称) 週2・曜日バスの検討

【事業9】地域コミュニティ組織に対する支援の検討

目標4

公共交通利用者の動向を踏まえた効果的な施策の展開

【事業 10】バス路線見直しの基準づくり

【事業 11】広域的取組やまちづくりと連携した事業の検討

目標5

公共交通ネットワークの維持

【事業 12】各種バス路線及び鉄道の維持

実施事業の概要と方向性

【事業1】総合的な公共交通利活用ガイドの作成

①事業概要

- ・現在市内の公共交通網の情報を一元的に提供しているものはなく、公共交通を日常的な交通 手段の選択肢としてもらうために、バス・鉄道・デマンド型乗合タクシー等のマップや時刻 表等を一つにとりまとめた利活用ガイドを作成する。
- ・バス停の位置や乗車方法、乗継の割引情報、お出かけのモデルルート設定等、公共交通の利用促進につながる取組を進める。

②実施主体

能代市、公共交通事業者

【事例】稲敷市 市内バスマップ





【事業2】鉄道や路線バス等の乗り継ぎを考慮した運行ダイヤの調整

①事業概要

・利便性の高い一体的な公共交通ネット ワークの構築に向けて、市民の利用実 態や要望を踏まえ、鉄道や各種バス路 線のスムーズな乗り継ぎ、通勤や通学 等を考慮して、路線バス等の運行ダイ ヤを見直す。

②実施主体

能代市、バス事業者

【事例】三郷市 公共交通情報相互提供システム



【事業3】巡回バス等の運行ルートの見直し

①事業概要

・既存のバス路線や鉄道と連携した利便性の高い公共交通のネットワーク構築に向けて、市民の利用実態や要望を踏まえ、巡回バス等の運行ルートを見直す。

②実施主体

能代市、バス事業者

▼はまなす号



▼しののめ号

【事業4】高齢者や低年齢層を対象としたバスの乗り方教室の実施

①事業概要	・バスの乗り方が分からないという不安感をなくすため、高齢者や低年齢層を対象としたバスの乗り方教室を開催する。 運行に使用されている車両を利用し、乗り方の説明や乗車体験と併せて、バスの死角や内輪 差などを実感することにより、交通安全への意識も高める。
②実施主体	能代市、バス事業者、市民

【事業5】運転免許証返納をきっかけとした高齢者の利用促進への取組

①事業概要	・運転免許証の返納をきっかけとして、高齢者の公共交通利用を促すため、路線バス等のお試し乗車券の配布を検討する。・路線バス等の利用に対する抵抗感の解消や運転免許証返納後の交通手段として、実際に利用する機会をつくる。
②実施主体	能代市、バス事業者、市民

【事例】秋田県内の運転免許自主返納者に対するサービス

由利本荘市	県内全域			
●市コミュニティバスの利用料金半額の利用者証の交付	●秋田県内の全タクシーを 1 割引			
※65 歳以上の免許証自主返納者が対象	●秋北バス、秋田中央交通、羽後交通のバス回数券割引			
	制度として、1,200 円分の回数券を 1,000 円で購入			
	※65 歳以上の免許証自主返納者が対象			

【事業6】既存デマンド型乗合タクシーの運行見直し

①事業概要	・現在運行しているデマンド型乗合タクシーについて、運行区間や対象エリアの拡大に取り組
	む。 ・現行の運行形態である「定時定路線型」を、「迂回運行型」や「区域運行型」へ変更する際の メリット・デメリット等について調査・研究を進める。
②実施主体	能代市、デマンド型乗合タクシー運行事業者、市民

【デマンド交通の運行方式パターン例】

①定時定路線型

・路線バスやコミュニティバスのように、定時で運行し 所定のバス停等で乗降を行うが、予約があった場合の み運行し、予約がなければ運行しない運行方式。 "空気バス"の解消を図ることができる。



②迂回運行型

・定時定路線型をベースに、予約に応じて所定のバス停等まで迂回させる運行方式。バス停等まで遠い地域に 迂回ルートを設定することにより、公共交通空白地域 の解消を図ることができる。



③区域運行型

・運行ルートやバス停等は設けず、運行区域内で予約の あったところを巡回するドアツードアのサービスを 提供する運行方式。一般タクシーとの差別化を図るた め、目的施設または発施設を限定する場合もある。



【事業7】デマンド型乗合タクシー導入地域の検討

①事業概要

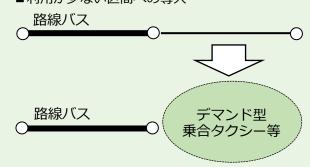
- ・広範囲で人口密度の低い地域や公共交通の需要が少ない地域において、新たな交通手段としてデマンド型乗合タクシーの導入を検討する。
- ・利用者の少ないバス路線区間については、新たな公共交通システムへの見直し等により効果的な運行形態を目指す。

②実施主体

能代市、デマンド型乗合タクシー運行事業者、バス事業者、市民

【導入イメージ】 ■交通空白域への導入 デマンド型 乗合タクシー等 路線バス等 ■

■利用が少ない区間への導入



【事業8】(仮称)週2・曜日バスの検討

①事業概要

・交通弱者の外出支援や交通格差を解消するため、公共交通空白地域の中でもある程度の需要を見込める地域において、地域ごとに運行する曜日を定めた、(仮称)週2・曜日バスの運行を検討する。

②実施主体

能代市、バス事業者、市民

【イメージ】: 車両2台で運行

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
A 地区	•		•		
B 地区		•		•	
C地区			•		•
D 地区	•			•	
E地区		•			•

【事業9】地域コミュニティ組織に対する支援の検討

①事業概要

- ・それぞれの地域で公共交通を身近なものとして捉え、バス停等の維持管理や 美化に取り組む機運を高めることを 目指す。
- ・地域住民が自ら外出する際の移動手段 を確保する有償運送や地域で買い物 できる移動販売の確保など、主体的な 検討や取組に結びつくよう、地域コミ ュニティ組織への支援を検討する。
- ②実施主体 能代市、バス事業者、市民

【事例】市原市 公共交通空白・不便地域の解消に 向けた市の支援内容



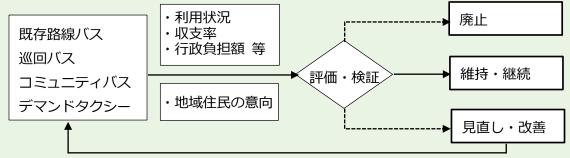
【事業 10】バス路線見直しの基準づくり

・公共交通ネットワークを維持していくため、バス路線の計画的な再編等を検討するための基準づくりに取り組む。

②実施主体|能代市、バス事業者

【イメージ】

①事業概要



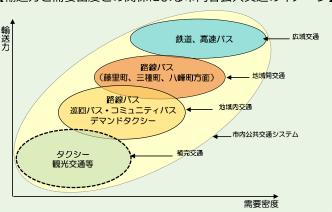
【事業 11】広域的取組やまちづくりと連携した事業の検討

・近隣自治体と公共交通の利用実態等に 関する情報を共有し、市・町で連携し た仕組みづくりを進める。また、必要 に応じて広域的な事業を検討する。 ・観光やイベントで訪れる人の公共交通

・観光やイベントで訪れる人の公共交通 利用の可能性や中心市街地の活性化 など、まちづくりと連携した事業を検 討する。

②実施主体 能代市、藤里町、三種町、八峰町、公共 交通事業者、関係団体等

【輸送力と需要密度との関係による市内各公共交通のイメージ】



【事業 12】各種バス路線及び鉄道の維持

①事業概要

・将来に向けて公共交通ネットワークを維持するため、負担の増加に留意しながら、路線の維持に要する市の財政負担を継続し、利用者の交通手段を確保する。

長野県上田市の概要

■人口: 160,957人 ■世帯数: 65,491 世帯

■高齢化率:27.1%

■財政力指数: 0.59

■過疎地域指定: なし

②実施主体

能代市、藤里町、三種町、八峰町、公共交通事業者、関係団体等

【事例】上田市 市の広報紙を活用した地域公共交通利用の PR

長野県上田市では地域公共交通の利用者数増加を目指し、広報「うえだ」に「乗って残そう!乗って活かそうパス路線」というコーナーを設け、利用を促す情報を提供している。平成25年度はシリーズ化し、年間数回の掲載を行った。

【掲載内容】

- ・バスの仕組み(運賃制度や回数券等)についてQ&A形式で紹介
- ・ 運賃低減バス実証運行の取組みについて紹介
- ・ 運賃収入や利用者数推移のデータ
- 市民一人ひとりがすぐにできる「乗って残す!乗って活かす!」の取組み例 など



資料:国土交通省中部運輸局 地域公共交通の確保・維持・改善に向け た利用促進策事例集[平成27年3月]

計画の目標指標と検証指標

■目標指標

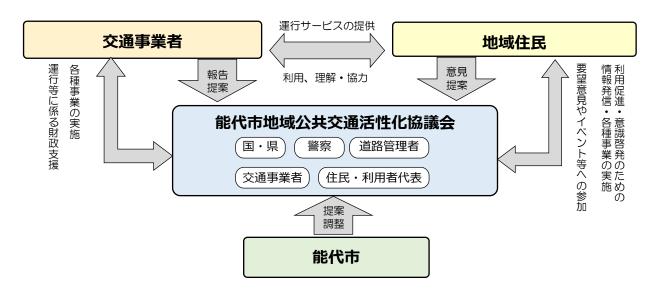
目標指標	指標の考え方	現況値(H30)	目標値(H35)
①利用者の要望や乗り継 ぎの利便性向上につな がる改善取組件数	・ダイヤやルートの見直しを含めた公共交 通に関する様々な見直しを積み重ね、利 用者の利便性向上を図る	-	毎年 2 件以上を 目指す
②現在の公共交通カバー エリア(面積)を 100 とした指標(100+a)	・現在の公共交通カバーエリア(面積)を 100 として、計画期間内に空白地域の解 消と既存路線に他の交通手段を導入する などを組み合わせ、エリアの拡大を図る	ľ	100 以上を目指す

■検証指標

検証指標	種別	利用者数(H29 年度)	補助及び委託料(H29年度)
路線バス等の利用者数・	路線バス	265,547人	62,003 千円
市の負担額	コミュニティバス	23,915人	13,945 千円
	巡回バス	74,622 人	16,736 千円
	デマンド型乗合タクシー	638人	1,420千円
	計	364,722 人	94,104 千円

計画の実施及び進行管理の体制

■本計画推進のための住民・事業者・行政による協働・連携体制



市の財政負担に制約がある中で、持続可能で利便性の高い公共交通の維持・確保を図るためには、交通事業者の 自助努力や行政の支援だけでなく、地域住民自らが公共交通を「みんなで創り、守り、育てる」という意識を持っ て関っていくことが重要となる。行政、交通事業者、地域住民それぞれが抱える課題について共通認識を持ち、一 体となって取り組んでいくことが必要不可欠である。

能代市環境產業部 商工港湾課 〒016-8501 秋田県能代市上町 1-3